

2020年度
八戸学院大学短期大学部
幼児保育学科
専門課程入学試験

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かない。
- 2 筆記用具は黒色の鉛筆またはシャープペンシルを使用する。
- 3 問題冊子に印刷不鮮明、ページの落丁などがあるときは、手を挙げて監督者に伝える。
- 4 問題冊子の余白等は適宜利用してよい。

次の文章を読んで、下線部「ゆたかな絵本体験」について簡潔に説明し、文章全体に対するあなたの考えを 600 字以上 800 字以内で書きなさい。

昨今は、子どもに絵本を読んでやることがとても普及しつつあります。声のことばで子どもを楽しませ歓ばせると共に、ゆたかな物語体験をさせることは、テレビやビデオとは異なって、子どもの心の成長やことばのゆたかさにとって計り知れぬ意味をもっています。また一方、読み手の大人自身にとっても貴重な経験です。それは読み手の大人が自らの内にひそんでいる“子ども”に気づき、自分の幼児期の感覚にめざめ、幼いときの見方や感じ方や興味の持ち方や印象、またそのときの読み手との交互の気持ちのやりとり、新しいことばづかいを話し手の呼吸と共に受けとめたときの新鮮な感覚などがよみがえってきて、いま目の前にいる子どもの表情やことばの息づかいを感じとる手がかりを与えられるからです。(中略)

好きな絵本を繰り返し読んでもらうことこそは、特に、2、3歳の幼児にとっては最高の絵本体験となります。読まされる大人は大変なのですが、読んでもらう子どもにとってはそれこそ生き甲斐を感じる至福の時で、1週間はおろか1か月でも半年でも続きます。この絵本体験には何としてもつき合ってください。そうしますと予想もしなかったふしぎなことが起こるでしょう。子どもはまったく文字が読めないにもかかわらず、いつの間にかその絵本の文章をすっかり覚えてしまい、半年、1年とたつうちに絵本のさし絵を眼で読みながら、自分で物語を声に出して語りはじめます。かなり長い物語でも、初めから終わりまでみごとに語り終えます。そんな様子を見るとわが子は天才かと親は舞い上がってしまうでしょうが、これはごく普通に2歳から4歳ぐらいまでの幼児が潜在的に備えている力で、ゆたかな絵本体験をした子どもにはよくみられます。

松居 直「声の文化と子どもの本」

発行所 日本キリスト教団出版局